

平成 30 年度 第 1 回平戸市認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議結果

1. 日 時：平成 30 年 7 月 23 日（月）午後 6 時 55 分 開会 午後 8 時 23 分 閉会
2. 場 所：平戸市未来創造館 会議室 B
3. 出席者：委員 9 名中 8 名出席、1 名欠席
出 席：石田委員・中島委員・塚本委員・中桶委員・濱崎委員・福崎委員・松本委員・山本委員
欠 席：大浦委員
事務局：梶田長寿介護課長・石田参事兼高齢者支援班長・藤井係長・谷本主査・西保健師・江川認知症地域支援推進員

4. 次第

- ①開会
- ②平戸市長寿介護課長あいさつ 長寿介護課長 梶田 俊介
- ③委員長あいさつ 濱崎委員長
- ④新任委員紹介 中島委員

5. 協議事項

- (1) 平成 29 年度認知症初期集中支援チーム活動実績報告、及び平成 30 年度認知症初期集中支援チーム活動途中経過報告

| | |
|------|---|
| 事務局 | 配布資料に基づき説明。 |
| 委員長 | ただ今、事務局より説明があったが、この件についていかがか。 |
| 〇〇委員 | おそらく今後の介護保険事業計画等で方針等の説明があるかと思うが、期間も短く件数も少ないのでは思ったが、訪問対象者の相談経路と要介護度別のクロス集計というか、要するに未申請の方が半分いて、その人たちはどこから相談があったのかなど、そのあたりで何か地域として今後重点的に取り組んでいかなければならないという方向性が見えたところはあるのか。例えば、要支援や要介護で何かしら誰かが関わっていて相談につながっていたのであれば、そのあたりの関係者のスキルが上がっていて相談につなぐことができたなど、そういったものが見えてきたことはあるか。 |
| 事務局 | 未申請者の方は 3 人いるが、一人は家族から、一人は包括ということで在宅看護師による訪問指導を元々受けていたが、介護認定を持ってはおらず、認知症が進んでいる傾向が見受けられたということで包括の方に相談というか、毎月あちこち行かれており、報告が上がってくるが、その中で関わった方がいいだろうということで把握を行った、残り 1 件については医療機関からの相談であり、定期受診ではない |

| | |
|-------------|---|
| <p>〇〇委員</p> | <p>が近くの病院に受診をした。その際に様子として認知症と見受けられるような生活状況というか、身なり、そういった部分で包括の方に相談があった。</p> <p>対象者把握から初回訪問までの日数として、最小値が1日で最大値が37日と書かれているが、相談があってすぐに来られると家族や相談された方は非常に安心されると思うが、37日かかるということが少し不安を感じさせ、相談して全然聞いてもらえていないのかなとなりはしないかと。今回は件数が6件と少なく分からないが、ただこれから先件数が増えていったときに、何ヶ月も待たなければいけないということは相談窓口としては成り立たないと思われるため、なぜ37日もかかったのか、それは改善できるものかと。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>37日かかったケースについては、医療機関からの相談ではあったが、夫婦の世帯であり、夫婦自体は認知症ということ意識していない方々であった。該当者、及び該当者の配偶者の方については、認知症を患っているという想いはなく、運転免許をまだ持っていることもあり、少しそのあたりの整理を行い、話しをもっていった方がいいだろうというところで、1ヶ月程度かかった。委員が言われるように、相談があって、当然ながらテンポをもって早めに対応するということは心がけていきたいと思うし、平均14日というところが長いか短いかと言われれば、ファーストコンタクトまでの期間としては長いかというところもある。昨年度の最初の会議において、先進市の手引きをみると相談から5日以内に接触するという書き込みもあった。5日以内ということができるかどうかは確約ができないが、平均14日という部分についてはでき得れば短縮していく必要があるかと思っている。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>各委員の意見の追加になるかと思うが、介入の際の受診状況のところ「受診中（認知症）」が1件、「受診中（認知症以外の疾患）」が3件となっている。医療機関に半数以上関わっているが、その方については主治医や医療機関からの気付きはなかったのかということ。受診中にも関わらず認知症について気がつかず、医療機関から相談がなかったのかどうかということが一点、特にこの3件についてそういったことがあったのかどうか。それから、初回訪問までの日数であるが、37日というものははずれ値ではないかと思う。大きく37日ということで外れてしまうと、平均自体が動いてしまうため、大体どれぐらいが日数として一番多かったのか。おそらく37日を含めて平均を出してしまうと、これだけで上がってしまうため、実はこれを引くとそのようにはないかと思われるが。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>訪問までの日数であるが、30日を超えている件数は1件のみである。その他の5件については、1日、2日、10日、12日、22日ということで、5件で割ったときに9.4日、すなわち10日程度ということになる。</p> |

| | |
|------|---|
| 〇〇委員 | レスポンスとしては結構いいのではないかと考えている。 |
| 事務局 | 介入時の受診状況であるが、受診中で定期受診でかかっているが、その際に医療機関として認知症という部分の気付きはなかったのかということであるが、医療機関からの相談ということでは包括には直接なかったが、多くの相談経路が家族からであり、家族を通して、認知症の薬などはもらってはいないが、そういった話は家族には出ている。ただ、包括の方までは経路として医療機関から相談があるというようなどころには至っていない。 |
| 〇〇委員 | 受診しているにも関わらず家族の方から認知症だから心配だ、という相談があったということか。 |
| 事務局 | そういうことである。家族がいれば、特に在宅で一緒に生活をされている場合は、少し進行が見受けられ、一緒に生活することがどうしても大変になってきたという相談の糸口で包括の方に来られる方が多かったようだ。 |

(2) 第7期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画における認知症施策

| | |
|------|--|
| 事務局 | 配布資料に基づき説明。 |
| 委員長 | それでは、この件について事務局より説明があった。質問等あれば、お願いしたい。 |
| 〇〇委員 | 認知症サポーター養成の目標値のことであるが、講座回数の12回は具体的にどの地域の誰を対象に、ということは何か決まっているのか。それとも、手挙げ方式か。 |
| 事務局 | サポーター養成講座については、基本的には手挙げ方式というか、申し込みをいただきそれに対応して開催している。教育委員会生涯学習課における出前講座の中にも項目として入れており、そこを通しての依頼が多い。団体によっては、昨今認知症というワードについては取り上げられる機会も多いため、直接サポーター養成講座をしたいという話もいただいている。また、大人だけの団体ではなく、小学生を対象とした講座の開催も行っている。 |
| 〇〇委員 | 地域偏在がもしあるのであれば、そのあたりをもう少し、ここが手薄かなというところ、地区にアプローチをかけるというような方法などいかがか。 |
| 事務局 | 介護保険上、本市では7圏域設定しているが、その中で例えば直近5年程度をみて、どこが多いのか少ないのかという比較検討したことがないため、やってみて手薄なところ、おそらく離島部は少ないのではないかとと思われるため検討してみたい。 |

| | |
|-------------|--|
| <p>〇〇委員</p> | <p>認知症ケアパスの件であるが、普及はどういう方法で行っていくのか。具体的なところとして、講師というかたちで行うのか、それとも何か他に考えがあるのかどうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>基本的には講話の中で、例えば介護予防教室や認知症サポーター養成講座等の中で紹介をしていく必要はあるかと思っているが、まだそこまで至っていない。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>紙でもらえるといいのかなとは思ったが、手書きの分でも何かあるといいかと思う。持って帰ったときに見ても専門用語がたくさんあるため分からないと思うが、少し見て帰れるのであれば用意できるとありがたい。また、PDF媒体でどちらかに流してもらえると、医療側から流すことも可能になる。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>認知症サポーターの件であるが、サポーターの活用という部分で検討しなければならないと思うが、活用方法について今後予定はあるか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>サポーターを増やしたが活躍される場が市として提供できているのかというところは十分ではないと感じている。サポーター自体がさりげなく見守る方という位置づけであり、それはそれで受講していただいて認知症について正しく理解する、向こう三軒両隣に誰しもいるということをイメージしていただければと思う。サポーター自身、オレンジリングが受講の証明となっており、あの方は講座を受けたことがあるのだという確認ができればと思っている。今後、サポーターが活躍できる場ということであるが、ひとつ考えられることはサポーター養成講座を開催するキャラバン・メイトとしての役割を担っていただく方を増やしていくということも考えられ、また認知症カフェを広げていくというところで、主催者とサポーターをくっつけることができれば取組としてはいいのではないかと思っている。その他、サポーター養成講座を依頼する団体は様々ではあるが、高齢者のいきいきサロンや老人クラブなど、そういったところで開催する場合もある。その中で、認知症になったからあなたは来ないでとか、認知症になったから団体としては受けきれないよ、ということではなく、認知症になってもサロンに行けるし、老人クラブにも行ける。それはサポーター養成講座を受けた皆さんが正しく理解しているので、支援することができるというような支援の方法もあるべきではないかと思っているところである。</p> |
| <p>〇〇委員</p> | <p>昨年末、認知症サポーターのステップアップ講座を講師として勉強させていただいたが、サポーター養成講座の修了者に対してステップアップというかたちで学ぶ機会、学ぶ場というところを作っていただければと思う。そういったところで住民に対してもうひとつ上の勉強があるということを啓発していくといいのではと思っ</p> |

| | |
|--|------|
| | ている。 |
|--|------|

(3) 認知症施策

| | |
|------|---|
| 事務局 | 配布資料に基づき説明。 |
| 委員長 | 事務局より説明があったが、この件について意見等お願いしたい。 |
| 〇〇委員 | 認知症カフェの件であるが、長崎市内のカフェへ視察に行かれたとなっているがどういったところに行かれたのか。 |
| 事務局 | 昨年7月に行っているが、包括の方からではなく職人町の方から認知症カフェをしてみたいという要望をいただき、認知症カフェ自体、国の地域支援事業要綱にもそういった場を作っていくべきとの内容もあったためやりましょうかということで、私たちとしてもカフェ自体を経験したことがないため、ではまずは見に行こうということで長崎市の方のカフェへ行った。長崎市の場合は、包括は全て委託で行っており、委託包括の方々が主催するカフェであったが、そちらの方に行かせていただき、どういった活動をしているのか、どういった内容で運営をしているのかといったところを私たちも参加をしながら少し話をいただいたというところである。 |
| 〇〇委員 | 茶話会のようなイメージをもっているが、実際行かれたところもそういった茶話会をメインとし、講話があったりするところだったのか。 |
| 事務局 | 長崎市のカフェは様々なことをされているかとは思いますが、私たちが行った際はレクレーションを行っていた。ちょっとした脳トレを行い、包括のスタッフ以外に先ほど話しが出たが、サポーターを少し入れており、長崎市の場合はサポーターが上級と中級といったものがあるかどうか分からないが、上級の講座を受講された方々が任意で入っていただいてボランティアでお世話をしている。その方々が何をするかというと、話の相手など、一人の方はハーモニカが得意ということで演奏をされていた。そのような形で1時間半から2時間程度過ごされていた。先週、別件で佐世保市の認知症カフェに参加した。そちらは2時間で、レクレーションや脳トレは行わない。というのが、脳トレをした場合、どうしても結果に差が出てしまうため、脳トレなどはデイサービスで行っていただくと。そちらのカフェはあくまで交流会ということで、参加者の皆さんは主には2時間ずっと話しをされている。長崎市の場合はカフェというよりかは、こういった会場で寄り集まって茶話会のようなかたちでされている、佐世保市の場合は、元々平日はカフェをしているところで、カフェの経営者の方が任意でカフェを行っていない時間帯を月に1回使っていいということでされている。 |

| | |
|------|--|
| ○○委員 | 入りやすさを考えたときにどういったかたちがいいものかと思い、視察の際の話を伺った。 |
| ○○委員 | 認知症カフェは実は私は何回も参加しており、非常に面白い。確かにMC Iの方もいるが、いろいろな話をする中で皆さんが非常に楽しんでいる。QRコードの件であるが、このシールが何であるかということは、私たちは分かるが、発見した方が分かるのかと思う。実際に困ったときにこれが相手につながるということが、保護した方が分かるのかどうか、ちょっと不安なところはある。「迷ったらココ」という目印のようなものが少しはあってもいいのではと思った。もう少し目立つところがあってもいいのではと思った。 |
| ○○委員 | 第一発見者の方が見たときに、それをどう捉えるのか、情報がないとなかなか難しいかと。状況をみて警察署の方に連絡するとか、周りに助けを求めて、周りの方が知っていれば大丈夫かとは思うが。 |
| ○○委員 | 私たちがみれば、ここにある文脈を見れば分かりはするが、これが本当につながるだろうかということは、少しシールに色が付いているとか、見守りネットワークのこれは何だろうか、一言もう少し踏み込んだ書き方がなされているとありがたいかとは思う。 |
| 事務局 | シールにもう少し説明があった方がいいのではないかということか。 |
| ○○委員 | これは読み込まなければ情報は分からないわけである。 |
| 委員長 | これを見て、どうしたらいいのか分からないとなる可能性がある。果たしてこれを発見したときに、このコードを読んでくださいということが書かれていないため、これを見つけてどうすればいいのか、どこに電話すればいいのかということが分からないし、これを見てQRコードと認識できない方もいる。そのあたりがもう少し何か一言でも書かれてあれば、いいのではないかと思った。 |
| ○○委員 | 元々これはどうやって配布を行うのか。認知症による徘徊の可能性のある高齢者ということは、認知症と診断を受けた方でないともらえないということか。一斉に配るといったことはできない、誰でも必要性はない。認知症による徘徊の可能性のあるということは、それだけ医療機関に関わっている可能性がある方が多いのではないかと考える。そうすると、配布するということは、診断を受けているから配布をされるのか、結局それは医療機関の先生方がきちんと分かっていると「これを渡すから」という一言があるだけで全然違うのかもしれない。 |

| | |
|------|--|
| 事務局 | 今のところ、このような定義でしか謳っていないため、認知症の診断があるかどうかというところまでは検討はしていない。 |
| 委員長 | 利用の手続きの中で基本的には利用申請があつてからとなっている。本人や家族から申請があつて、それから判断を包括が行ってから包括の方で渡すと。 |
| 〇〇委員 | 認知症と診断ができるのは、ドクターしかいない。認知症の疑いがあるから包括が渡すということは違うのではないかと思う。認知症の診断を受けているから、認知症によるということではないのか、そういう定義の仕方ではないのかと思った。簡単に認知症と言ってしまっているのかなと思う。 |
| 委員長 | 認知症という診断を包括が行うわけではない。そのあたり詳細をどうするのか、今から詰めるのかどうか。 |
| 事務局 | 作ることと内容は同時並行でもいいのではないかと考えているが、対象者をどのようにピックアップしていくのかということについては、意見をいただいているため、少し内容を検討する必要があるかと思われる。 |
| 〇〇委員 | 安易に認知症という言葉を使っていいのかと考えている。認知症による徘徊の可能性があるということは、相当デリケートなところではないかと思う。渡された瞬間に、お医者さんからも何も言われていない自分がポツと渡されたら、どうして私は認知症と思われているのか、となる人もいるのではないかと思う。実際に今回の夫婦でも認知症ではない状況の中で、認知症以外の疾患の3名の方、医療機関から相談を受けていないが家族から相談を受けた方、私たちは認知症ではない、と書いていたかもしれない。そういう人たちが包括から物を渡されると、内容を知った人は認知症と思われているのかな、となる気がする。きちんとドクターの指示や診断というか、そういうことが大きいかもしれないし、そのときにドクターや医療機関から、とりあえずこういうものがあるから使ってみてくださいね、と困ったときにQRコードを読み取るんだという説明があってもいいのではないかと思った。 |
| 事務局 | 家族の申請が出てからということになるため、認知症の診断が出る、出ないはまだはっきりとはしていないが、だからこれを渡す、ドクターが渡すということではなく、申請に対して、家族が徘徊の恐れがあると、認知症の可能性があり徘徊で困っているよ、という方からの申請に対し、判断をどうするかということはあるが、申請書が出てきて判断して出すというかたちをとっているため、この人は認知症なんだよ、という家族が認識しないうちに出すということはない。どこまで出すかという判断が今言われるとおり、どこまでなのかということは今からのところもある |

| | |
|------|---|
| | かと思うが、家族の申請というところでもいいのではないかと考えている。定義をそこまで明確にしなくてもいいのではないかと、事前に保護するということが目的であるので。 |
| 委員長 | 認知症という言葉を外すわけにはいかないのか。高齢者QRコード見守りなどではだめなのか。高齢者見守りネットワークとしているため、認知症という言葉を外しても支障がないような気がする。それならば認知症に限らず見守りすることになる。 |
| 事務局 | 実際はここには見守りネットワークとしか出ていない。また、読み込んだ際も認知症だからということもない。だから、言い方の問題でそういう整理もあってもいいのではないかと考えている。 |
| 〇〇委員 | シールを杖などに貼ることになるかと思うが、貼ることで巻き込んだときに読み込みは可能なのか。 |
| 事務局 | その部分については、業者に確認してみたい。 |
| 〇〇委員 | 実際使っているところをモデルにしているのか。そういったところの活用事例などはあるのか。例えば、杖にどういふふう貼っているのか、服にはどういふかたちで付けているのか、実際高齢者の方が付けて行方不明になったときに見つけた事例など。結局、住民への周知が大事かと思われる。そういうところをどのように行っているのか。 |
| 事務局 | 大阪の事例にヒントを得ているが、実績や活用事例など具体的なところはまだ把握していないため、周知等活用できる分については行っていきたい。 |
| 〇〇委員 | 認知症カフェはグループホームや認知症通所介護事業所で、今後開催されていくということでよいか。 |
| 事務局 | はい。 |
| 〇〇委員 | 各地域で、認知症カフェができていくことはいいことかと思うが、実際できそうな感じなのか。これから7月にかけて事業所を選んでいくということであるが、どれぐらい作る予定か。 |
| 事務局 | 第7期介護保険事業計画のなかでも上げており、5ヶ所ということで予算等は今年度計上しているが、今回の事業所説明会のあとで2ヶ所は手を挙げていただい |

| | |
|------|---|
| 〇〇委員 | <p>る。まだ、回答をいただいている事業所が2～3ヶ所あるため、今週中には確認を行い、各々の事業所の方と調整を行いたいと考えている。</p> <p>職人町カフェ・およりよは、先ほど参加者というのはすこやかサロンに元々参加している方や関心がある方という説明があったかとは思いますが、具体的に認知症の方は参加されていたのか。もし参加しているのであれば、効果というか、良かったことというか、そういったものがあれば教えていただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>元々この場所は平戸よかよか体操を行っているサロンの場所であり、毎週同じ時間帯に体操を行っている。月に1回だけ体操を30分、残りはカフェを行うということで開催されている。元々の参加者の中に認知症かなと思われる方が二人ほどいる。その方々は在宅生活もしており、週に1回サロンで体操を行うために集まっており、それを楽しみにしている。認知症カフェにも参加している。認知症カフェというよりは、カフェを行うということで集まっており、特徴的というか感じたことは、3月に「歌って楽しく脳トレ」ということで音楽教室の先生に来ていただき昭和の歌謡曲を歌ったり、イントロクイズを行ったが、その中で昔の記憶はあるため、イントロクイズなどは真っ先に答えていた。電子ピアノを持参されていたが、ピアノを弾きだすと歌っていただいて、やはり交流ということで環境がいいのではないかと思う。具体的な効果として数字等で表すことはできないが、当事者の方、また周りの方々も認知症について自分自身もなっていくのだという不安もあるため、それに対する対処の仕方等等、そういったところを学びとっていただける場になっているのではないかと感じている。</p> |

5. その他

特になし